

立て管 80 の 飛ばし配管

追加バリエーション 減速継手 SJ 80

2002.6.30号の”ご注意！飛ばし配管 1層おきに減速継手SJ100をご使用下さい！”で報告した、減速継手SJに立て管80A用が新規追加されました。以下に減速継手を設けない場合と1層おきに減速継手SJ80を設けた場合の、比較実験を行いましたのでその結果の一部を報告します。

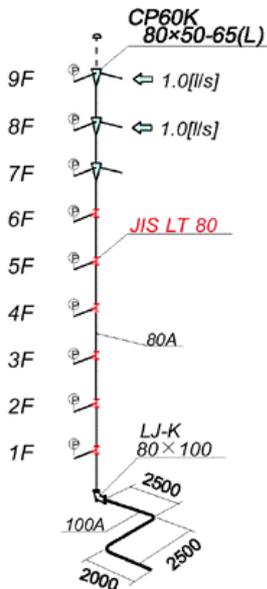


減速継手
SJ-K 80 SJ-S 80

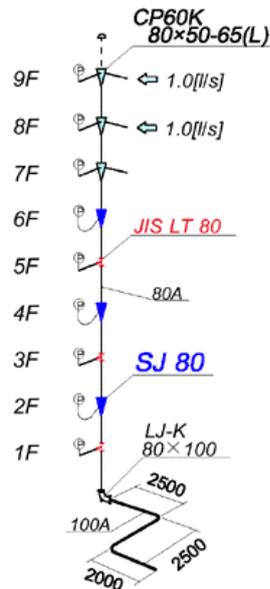
●実験条件

供試継手	CP60K 80×50-65(L)
排水立て管径	80A
排水横主管径	100A (LJ-K80×100)
横主管形態	水平2曲がり (2,500mm+2,500mm+2,000mm)
排水負荷	定流量 2.0[l/s] (9F:1.0[l/s], 8F:1.0[l/s])
試験方法	SHASE-S 218 「集合住宅の排水立て管システム」

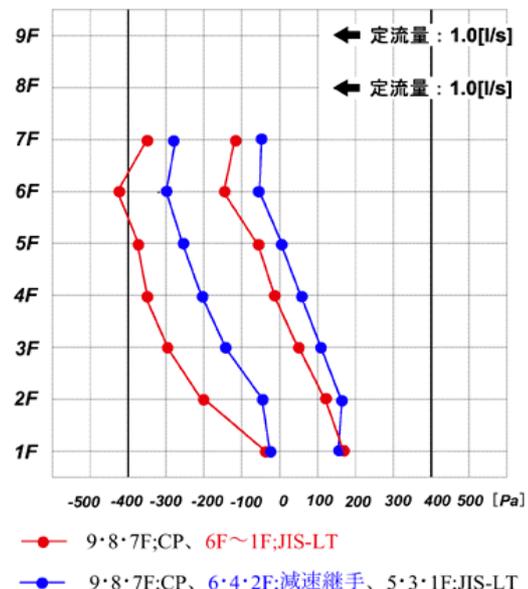
●実験結果



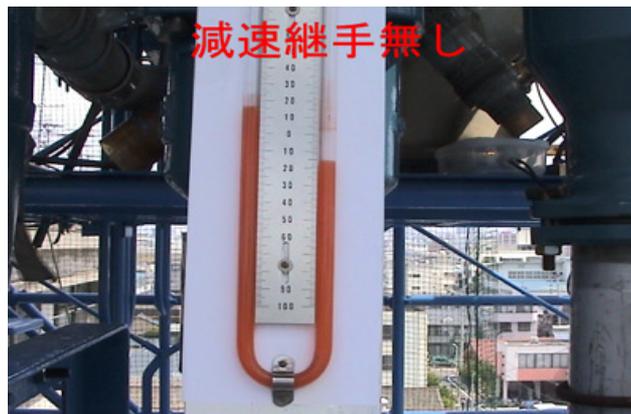
9・8・7F ; CP60
6～1F ; JIS-LT



9・8・7F ; CP60
6・4・2F ; 減速継手SJ
5・3・1F ; JIS-LT



1F～6Fに減速継手を設けない場合、その上階の7Fも、大きな負圧が発生します。減速継手を1層ごとに設置することにより、負圧は緩和されます。



☆減速継手無しの封水挙動を動画で確認できます。